

2020 年度
事業報告書

自 2020 年 4 月 1 日
至 2021 年 3 月 31 日

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

目 次

概 況	1
1. はじめに	1
2. 連盟全体	2
3. 事業別概況	3
I. 競技会事業（公益目的事業 1）	8
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）	8
2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）	9
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）	9
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）	9
II. 普及事業（公益目的事業 2）	10
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）	10
2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）	11
3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）	11
4. 広報（公益目的事業 2.4）	13
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）	13
III. 国際交流事業（公益目的事業 3）	14
1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）	14
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）	14
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）	14
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）	14
IV. 収益事業等	15
1. 公認（収益事業等 1）	15
2. 商品販売（収益事業等 2）	15
V. 法人・管理部門	16
1. 会員・会友	16
2. 理事会・会員総会	17
3. 組織運営	18
4. 常設委員会・特別委員会	18

概 況

1. はじめに

2020年度の事業計画は、当連盟の中長期的な課題である「財務的に強固な事業基盤を構築すること」、「普及活動をブリッジセンターに定着させること」、および「プレイヤーの高齢化に対応すること」の3点について、継続あるいは強化して取り組んでいくこととしていたが、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナという）の影響が甚大となりコロナに振り回された1年となった。

各ブリッジセンターは2020年4月および5月は完全休業を余儀なくされ、6月に営業を再開して回復傾向にあったが、12月以降は感染が再拡大し、2021年1月～3月のテーブル数はコロナ発生前の4割程度にとどまった。各ブリッジクラブは地域差が見られつつも、活動を長期休止したところが目立った。

JCBLは公認料収入、主催競技会収入ともに激減し、財政的に苦しい状況となった。各種助成金の有効活用、および管理部門の経費節減に努めたが、それでも収入の減少を埋めるには至らず、普及事業、国際交流事業の経費を大きく縮小させ、横浜ブリッジフェスティバルを中止することで財政状態の維持を図った。センターの窮状に対して、センター支援を2020年4月および2021年3月の合計2回行った。その結果、決算は予算を下回り赤字が増大した。

コロナ対策として、体調不十分なプレイヤーの参加自粛、消毒液の設置と使用、手洗い、換気を各ブリッジセンターおよびブリッジクラブに要請した。4人のプレイヤーを仕切るパネルの設置を働きかけ、全国14のうち11センターで導入された。検温用の非接触型温度計を各ブリッジセンターに配布した。

コロナの感染状況については、ブリッジセンターおよびブリッジクラブ内部でプレイヤーからプレイヤーへ感染したケースは1度も報告されなかった。プレイヤーがブリッジセンターもしくはブリッジクラブに参加し、後日に検査を受けて陽性が判明したケースは、2020年11月に大阪BCで1件、12月にムサシノBCおよび茅ヶ崎BCで各1件発生したのみにとどまった。保健所から、仕切りパネルを設け、消毒液の設置、手洗い、換気を行っているブリッジのプレイヤーの状況は濃厚接触にあたらぬとの説明を受けたケースがあった。

JCBL主催競技会は2020年4月～7月にかけて、柳谷杯、玉川高島屋杯、サントリー杯、日本リーグ、地域対抗戦の地域予選および全国大会、井上杯、井上歌子杯を、2021年1月から2月は日本リーグ、横浜ブリッジフェスティバル、横浜スイスチーム、横浜オープンペアを、それぞれ中止または延期とした。

国際競技大会は、2020年4月にオーストラリアで開催予定であったAPBF kongress、2020年7月にイタリアで開催予定であった2020ワールドブリッジゲームズおよび世界ユース選手権がそれぞれ中止または延期となった。

会員および会友約7,000人のうち、コロナにより2020年度はブリッジを全く行わなかったプレイヤーが約2,300人いたものと推測している。

以下では、2020年度事業計画の基本方針に沿って事業活動の概況について述べる。

2. 連盟全体

2020 年度は、連盟全体の課題を①収益増加、②経費削減、③将来への投資の 3 つに集約し、引き続き業務執行体制の強化、事業の効率化とともに公益に資する事業運営に努め、各事業部の事業計画に沿って事業を実施する計画であったが、コロナにより大幅な予定変更を行うこととなった。

(1) 収益増加

「本年度の予算編成に関しては、ブリッジフェスティバルの非開催年度である昨年度と 2 年度通算での収支均衡予算を目指す。具体的には、ブリッジフェスティバルの開催のための 1,200 万円の収支悪化分を含めて 416 万円の赤字を見込む。」

当期経常増減額のうち経常収益については 2 億 2,676 万円を見込んでいたが、実績では約 1 億 966 万円となり、予算に対して約 1 億 1,710 万円の不足となった。実際には商品販売事業の内部取引消去額が約 153 万円になり、それを含めても約 1 億 1,557 万円の収益減となった。経常費用については当初予算では 2 億 3,092 万円を見込んでいたが、実績では約 1 億 3,519 万円（内部取引消去前は 1 億 3,672 万円）になり、約 9,573 万円（内部取引消去前は約 9,726 万円）の改善が見られた。経常外収益の受取助成金等が約 2,500 万円あった。

競技会参加者数を見てみると、主催競技会、公認競技会ともに前年度を大きく下回った。最終的に 12,103,352 円の赤字決算となった。

「競技会事業においては、会員・会友の高齢化に伴う参加者数の減少を防ぐ競技会運営を検討し、新規プレイヤーの競技会参加定着を図る。初心者の競技会参加頻度が上がるような競技会運営を目指す。」

2020 年度はコロナにより、初心者大会への地方在住の△20 のプレイヤーの招待、参加賞の提供、および競技会への移行促進を目的とした△5 向けのウィークリークラス 1 のチーム戦であるサロン対抗戦の開催を見送った。

2019 年度末の会員・会友数は平成 2018 年度末の 7,578 人から若干減少して 7,499 人であった。2020 年度も入会や紹介のキャンペーンを継続したがコロナの影響で新入会員が増えず、2020 年度末の会員・会友数は若干減少して 7,010 人となった。

(2) 経費削減

「本年度も事務局職員の世代交代を継続し、人件費が減少する。昨年 5 月に新規採用した若手職員、及び中堅職員の育成を行い、事務局の新しい体制の構築を進めていく。マニュアル化や作業効率化を図り、作業の確実性を高めていく。」

本年度は事務局長、競技会事業部長が就任 2 年目となり、世代交代の促進とともに人件費の抑制が行われた。一昨年 5 月から新規採用した若手職員には、幅広い業務を体験させ育成に努めた。

経費削減については、職員の休業や報酬削減、アルバイトの人員削減、助成金の活用を行い、コロナによる収入の減少を補った。

「普及事業については、広報活動において、ブリッジの一般的な知名度の向上を目指す広告掲載から、具体的な体験教室、入門講習会の告知広告を重視する方向への移行を強め、効率的な宣伝活動を行っていく。」

広報活動は、首都圏を中心とした全国の体験教室の告知広告を 2020 年秋、及び 2021 年春の 2 回、各体験教室の開始のタイミングに合わせて新聞等へ掲載を行った。コロナにより参加者は例年の半分程度にとどまった。

(3) 将来への投資

「若い世代のプレイヤーの獲得のため、橋之介くらぶ、ユースプレイヤーの育成、学生リーグ運営、大学授業の実施、社交型イベント、ゲーム愛好家の活動の支援を行う。」

橋之介くらぶは緊急事態宣言期間中を除き、四谷、大船で開催した。ユースプロジェクト、学生リーグの支援、大学授業の実施については、規模を大幅に縮小した。社交型イベント「Light bridge」及びゲーム愛好家の活動「Table cruise」については支援を見送った。

3. 事業別概況

(1) 競技会事業（公益目的事業 1）

【競技運営】

「主催競技会の運営においては、世界各国からも高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。」

2020 年度は予定していた連盟主催ナショナル 10 競技会、同リジョナル 5 競技会のうち、ナショナル 8 競技会とリジョナル 1 競技会を開催し、コロナの影響でナショナル 1 競技会を中止、1 競技会を 2021 年度に延期、リジョナル 4 競技会を中止した。

【ブリッジフェスティバル】

「2015 年以降ブリッジフェスティバルを隔年開催とした。本年度は開催年にあたり、日程を 1 日短縮して、横浜カップ、横浜スイスチーム、横浜オープンペアを 2021 年 2 月に開催する。」

予定していた横浜ブリッジフェスティバルの開催を見送り、横浜カップ、横浜スイスチーム、横浜オープンペアを全て中止した。

【競技会の向上】

「中長期的な課題として、引き続きよりよい競技機会を広く提供するために競技会の内容の見直しと競技会参加者に対するサービス向上を図る。」

コロナの対応のためテーブル数を調整して、会場の収容人数を減らし換気を徹底した。1 ラウンドのボード数や対戦方法を見直しフライト数をなるべく多く維持した。日本リーグとクラブリーグの試合要項を改訂して 3 つのクラブリーグが維持できるようにした。各競技会で体調不良者が出たときに安心してキャンセルができるように各種規定を設けた。

【JTOS】

「競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト（JTOS）については競技会事業部が継続して保守にあたることとし、使用者のニーズに合わせた新バージョンを随時リリースする。スコア入力システム（ブリッジメイト）の貸与及び導入支援を継続する。」

2021 年度は JTOS Ver 3.5 へのメジャーアップデートを行った。バージョンアップ

時のトラブルに対応できる文書を作成し公開した。

ブリッジメイトの貸し出しが必要な地方リジョナルはコロナの影響により開催されなかった。

【ディレクター育成】

「ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。これまで隔年に開催してきたナショナルディレクター養成プログラムを見直し、3年ごとに行うこととした。同プログラムは本年度には実施せず、来年度に行う予定とする。」

毎年3月に開催しているクラブディレクター講習会はコロナの影響により2021年度8月に延期とした。

ナショナルディレクター養成プログラムを実施し2名のナショナルディレクターが承認された。

12月に予定していたWBFディレクターによる講習会はコロナの影響により中止した。

【ブリッジの規則改正】

「デュプリケートブリッジの規則が10年ぶりに改正され、日本では2018年3月31日から施行された。本年度はWBFから発行された規則の解説などの日本語化を行い、新規則への対応の周知を行う。」

2018年3月31日に施行された新規則移行のスムーズな定着に努めた。WBFから発行された規則の解説の日本語化と周知を行った。

(2) 普及事業（公益目的事業2）

【広報活動】

「体験教室、入門講習会の告知活動、ブリッジを紹介する動画およびその続編の制作とYouTubeへの公開を行う。」

ブリッジ紹介動画の作成については検討を進め、次年度の完成を予定している。

【入門講習会支援】

「新聞に掲載告知広告を掲載し、各センター・クラブ主催の体験教室、入門講習会の参加者の増加を図る、口コミを活用した入門者獲得を推進する優待券進呈キャンペーンの継続と、センター・クラブの周辺地域での体験イベントの開催を行っていく。」

首都圏を中心とした全国の体験教室の告知広告を2020年秋および2021年春に行った。2020年度も優待券進呈キャンペーンを継続した。

【初心者の競技会参加の支援】

「初心者大会の賞品を充実させ活性化を図るとともに、地方参加者を首都圏の初心者大会に無償招待をすることで地方の競技参加層を拡大させる。講習会の先生とMP5未満のプレイヤーが一緒のチームで参加する初心者大会を開催する。」

首都圏初心者大会への地方プレイヤーの無償招待の実施、および講習会の先生とMP5未満のプレイヤーが一緒のチームで参加する初心者大会の開催を見送った。

【体験イベント】

「ブリッジを知らない人に体験してもらう場を開催し、ブリッジの宣伝と新規プレイヤ

一の獲得を行う。ねんりんピック 2020 岐阜、ゲームマーケット 2020 春、秋、大阪、霞が関子ども見学デー、関西ジュニアペア碁大会に出展する。」

イベントへの体験ブースの出展は全て見送った。

【子どもおよびユース】

「橋之介くらぶでは、四谷・横浜・大船の3会場でブリッジを体験し基礎を学ぶ機会を提供する。大学生を中心としたユースプレイヤーの育成を図るため、講習会や合宿の補助、競技会への誘導、クラブ活動の支援を行っていく。」

橋之介くらぶは四谷および大船で緊急事態宣言期間中を除き開催した。ユースの講習会、合宿の補助、競技会の誘導、クラブ活動の支援は、見送りまたは大幅な縮小を行った。

【大学でのブリッジ授業の開講】

「大学でブリッジ授業を開講し、ブリッジに理解ある若い世代の確保とブリッジの知名度の向上を図る。東京大学・早稲田大学・青山学院大学・明治大学・大阪大学・愛媛大学でそれぞれ実施する。」

2020 年度は早稲田大学の前期及び東京大学の後期で実施された。大阪大学は自主開講で実施された。青山学院大学、明治大学、愛媛大学の開催を見送った。

【若い成人向けの普及活動】

「20 代～40 代が中心の社交型ブリッジおよびゲーム愛好家向けブリッジはそれぞれほぼ毎月開催され、新しい層へのブリッジの訴求に着実な成果をあげてきた。今年度もそれらの活動を支援し、若い世代のブリッジの楽しみかたの選択肢を広げる。」

2020 年度は社交型ブリッジおよびゲーム愛好家向けブリッジの活動の支援を見送った。

【京阪神の普及活動】

「カルチャースクールと連携して一般層の取り込みに力を入れる。大学生を中心とした若い世代に対しては競技会へ積極的に誘致してレベルアップを図る。」

名古屋、京都、大阪における活動はカルチャースクールの重要性が高く、各スクールと連携して新規プレイヤーの育成を行った。

【その他各地域の普及活動】

「福岡、札幌、仙台及びその他の全国各地域の普及活動に対して、広告宣伝への協力、指導ノウハウの共有を行い、体験教室の開催を支援していく。」

福岡、仙台の広告宣伝への協力を実施し、体験教室の参加者の確保に努めた。

(3) 国際交流事業（公益目的事業 3）

【2020 ワールドブリッジゲームズ】

「2020 年 8 月にサルソマッジョーレ・テルメ（イタリア）で開催される 2020 ワールドブリッジゲームズに、オープン、ウィメン、ミックス、シニアの 4 つの代表チームを派遣する。4 チーム中 2 チーム以上のノックアウトステージ進出を目指す。」

2020 ワールドブリッジゲームズは中止となり、ワールドブリッジゲームズは 2022 年から 4 年おき、ワールドブリッジシリーズは 2024 年から 4 年おきの開催にそれぞれ

れ変更された。

【世界ユースチーム選手権】

「2020 年 7 月にサルソマッジョーレ・テルメで開催される世界ユースチーム選手権にヤングスターおよび U31 の代表チームを派遣する。」

世界ユースチーム選手権は中止となり、今回は 2021 年の開催が予定されている。

【2022 年アジア大会】

「2022 年中国の杭州で開催される第 19 回アジア競技大会の参加に向けた準備を進めていく。日本オリンピック委員会、日本アンチ・ドーピング機構への加盟継続と派遣種目の選定を今年度実施する。」

2022 年アジア競技大会の派遣種目は、参考材料に指定していた 2020 ワールドブリッジゲームズの中止を受け検討を行った。方針決定と公表は 2021 年 4 月に行う予定とした。

(4) 収益事業

① 公認事業（収益事業 1）

「公認事業関連業務は公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターと連携し、より円滑かつ適正な事業運営となるようシステム化、効率化を進めていく。」

2016 年度行った CCG 公認料、非会員の主催競技会での参加料、および非会員のセクショナル以上の公認競技会での公認料の 3 つの改訂について、定着している状況を確認した。

② 商品販売事業（収益事業 2）

「在庫管理や販売方法など関連業務の見直し及び効率化を図る。」

在庫管理やウェブからの商品発注に対する回答などの自動化について検討を行った。

(5) 管理部門

「昨年度に引き続いて新入会無料キャンペーンを継続する。2014 年度から 2017 年度の無料キャンペーン利用者は無料期間終了後も高い継続率を維持しているため、新入会者の確保を最優先としそのための施策を実施する。」

2014 年度から 2017 年度の無料キャンペーンの利用者は、無料期間終了後も 80% 弱が会友として継続している。十分な継続率であると考えられ、新入会キャンペーンを今後も継続する。

「各センター・クラブとの連携の強化、プレイヤーにとってもより魅力のある連盟を目指し、事務局員のブリッジ愛好者への対応の向上を図る。事務局業務の改善と職員の世代交代の促進に取り組み、マニュアル化を推進する。」

事務局員の世代交代に向け、業務の効率化を推進するとともに具体的な業務の引継ぎを開始した。

「内部統制力の向上のため、連盟内システムの改善に取り組む。」

面談によってそれぞれ課題を明確にして取り組むよう指導した。事務局会議はコロナによる勤務時間の変化により開催を見送った。

「進展する高齢化社会に対応し、弾力性のある事業基盤の構築をめざす。」

バリアフリー及び AED の設置に関する助成を継続した。競技会においてステーションナリーの活用を行った。

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

① 主催競技会

- 2020 年度は以下の競技会を主催した。

競技会名	日程	開催日数	場所	参加卓数	前年度
1) ナショナル競技会（全国大会）					
全日本地域対抗選手権（関東予選）	5月11、12、18、19日	4日	四谷 BC	中止	24卓
藤山杯	6月29、30日	2日	四谷 BC	23卓	38卓
全日本ウィメンズチーム選手権	7月18、19日	2日	四谷 BC	7卓	24卓
外務大臣杯（予選・決勝）	8月29、30日	2日	四谷 BC	18.5卓	25卓
高松宮記念杯	9月12、13、19、20日	4日	四谷 BC/ 五反田 BS	44卓	66卓
全日本女子ペア選手権（予選・決勝）	10月3、4日	2日	四谷 BC	22卓	29.5卓
高松宮妃記念杯（予選・決勝）	10月31、11月1日	2日	四谷 BC	13卓	31.5卓
ブルーリボン杯	12月20日	1日	四谷 BC/名古屋 BC/ 大阪 BC	57.5卓	78卓
レッドリボン杯	12月20日	1日	高田馬場 BC/	7卓	22.5卓
朝日新聞社杯	1月11～13日	3日	四谷 BC/五反田 BS/ 高田馬場 BC/渋谷 BC	延期	127卓
2) 日本リーグ					
1部	前期：4・7月	4日	四谷 BC	16卓	16卓
2部	後期：12・1月	4日		24卓	24卓
3) リジショナル競技会					
柳谷杯	4月6、7日	2日	四谷 BC/ 高田馬場 BC	中止	87卓
サントリー杯	4月29日	1日	四谷 BC/ 名古屋 BC/大阪 BC	中止	76.5卓
井上杯（予選・決勝）	5月25、26日	2日	四谷 BC	中止	21卓
井上歌子杯	5月26日	1日	四谷 BC	中止	30.5卓
渡辺杯	3月20、21日	2日	四谷 BC	26止	39卓
4) 社会人リーグ					
社会人 IMP リーグ	11月～3月		各会場	8卓	12卓

- 2020 年度も前年度優勝者を招待したが 2020 年度競技会の優勝は招待しないこととした。地方予選通過・地方クラブ推薦による参加者に対しては交通費・宿泊費の助成を実施するとともに、前日宿泊の宿泊費を助成した。

内訳：交通費補助・前泊補助の対象はチーム戦 1 競技会 1 チームと、ペア戦 3 競技会 8 ペア、補助総額は 36 万円。

- 競技会は参加者数がコロナの影響で例年の 6～7 割程度。

② 横浜ブリッジフェスティバル

- 2020 年度は隔年開催である横浜ブリッジフェスティバルの開催を予定していたが、コロナの影響により横浜カップを中止、横浜スイスチームと横浜オープンペアも危急事態宣言により中止した。

2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

2020 年度は以下の事業を実施した。

① 競技会運営管理システム

- 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行い Ver 3.5 へのメジャーアップデートを行った。

② 競技会運営環境の整備と維持

- コロナの対応のためテーブル数を調整して、会場の収容人数を減らし換気を徹底した。1 ラウンドのボード数や対戦方法を見直しフライト数をなるべく多く維持した。日本リーグとクラブリーグの試合要項を改訂して3つのクラブリーグが維持できるようにした。各競技会で体調不良者が出たときに安心してキャンセルができるように各種規定を設けた。
- コロナによる収益の悪化のため賞品を見直した。

③ 競技委員会

- 寺本直志理事を委員長としてとして以下の 12 名が委員として活動した。

委員：ロバート・ゲラー、浅越ことみ、石橋瑞己、齋藤千鶴乃、桜井雅子、山後秀幸、佐々部君敏、正村祐一、林伸之、山田和彦、吉田正、仲村篤志

- 定例委員会を 5 回開催した。

3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

2020 年度は以下の事業を実施した。

① ディレクター講習会

例年 3 月に開催していたクラブディレクター養成講習会を 2021 年 8 月 22 日（日）に延期した。会場は四谷ブリッジセンターで行う予定。

② ナショナルディレクター養成プログラム

ナショナルディレクター養成プログラムを実施し 2 名のナショナルディレクターが承認された。

③ ディレクター承認

競技委員会においてクラブディレクター 8 名、セクショナルディレクター 1 名を承認した。

4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

- 競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

II. 普及事業（公益目的事業 2）

1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種体験イベント関連事業は、2020年度の実施を全て見送った。

① 文化・教育関連イベント出展

事業名	主催団体	実施場所	日数	受益対象者の範囲	実施状況
国民文化祭	文化庁	宮崎県	2日	一般	2021年度へ延期
ねんりんピック	厚生労働省	岐阜県	3日	一般	2021年度へ延期
霞が関子ども見学デー	文部科学省	文部科学省	1日	小学生及びその保護者	中止
第12回関西ジュニア・ペア碁大会	日本ペア碁協会	大阪サンライズビル	1日	小中学生及びその保護者	出展見送り

国民文化祭、ねんりんピック、および霞が関子ども見学デーは2021年度へ延期または中止となった。第12回関西ジュニア・ペア碁大会への体験教室の出展を見送った。

② 他団体主催イベント

ゲームマーケット東京春、東京秋、関西、およびサンケイリビング社主催イベントへの体験教室の出展を見送った。

③ 子ども向け体験イベント

・ 橋之介くらぶ体験イベント

2017年9月より開始した大船BC、四谷BC及び横浜BCの3会場で橋之介くらぶイベントを2020年7月～12月に開催した。小学生から高校生及びその保護者にミニブリッジを体験、練習できる機会を継続的に提供し、ブリッジの認知度・イメージの向上を図るとともに将来のブリッジ界を担う若いプレイヤーの育成に取り組んだ。なお、2020年4月～6月、2021年1月～3月は感染拡大に鑑み中止とした。

年間開催実績

事業名	実施場所別回数			実施時期	参加人数 (合計)
	四谷 BC	横浜 BC	大船 BC		
体験／入門／練習会					
体験教室	2	0	0	7～12月	2名
橋之介道場	1	0	5	7～12月	16名
大会					
お楽しみ大会	0	0	1	12月	8名

・ 橋之介くらぶ運営

2020年度の橋之介くらぶへの新規入会者数は1名（2019年度5名）、年度末時点での会員数は94名（同108名）、各種イベントへの延べ参加者数は26名（同88名 ※ジュニアのみ）であった。

子ども向け広報活動として季刊誌『橋之介くらぶ通信』の編集・発行（9月、12月）

を行った。このほか、会報橋之介くらぶコーナー・ウェブサイトの子ども向けページの記事の編集・作成・掲出、チラシ・ポスター制作・配付、登録者向けのイベント情報のメール配信などの広報活動を行った。

2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会等を開催する事業を「講習会等の開催」としてまとめ、以下の事業を実施した。

ユース向け講習会

意欲あるユースプレイヤーの育成を目的とする「ユース育成プロジェクト」の一環として、強化プログラムによる技術向上支援を行った（「ユース育成プロジェクト」の国際大会派遣事業は公益目的事業 3.2）。

A) 育成プロジェクト（公益目的事業 2.2）

2020 年度の代表選手及び 2021 年度代表候補登録者を対象に、講習会、国内競技会参加、代表選考試合等で構成される育成プロジェクトを実施した。参加者には、プロジェクト指定の競技会（高松宮記念杯）の参加費を助成した。

ユース育成プロジェクトの 2020 年度の登録者数は 32 名（前年比 53 名減）だった。

B) 国際大会への派遣（公益目的事業 3.2）

2020 年度は 4 月にオーストラリアで開催予定の APBF コンgress および 7 月にイタリアで開催予定の世界ユースチーム選手権はともに中止となった。

3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

体験教室や講習会等を開催する会員・会友や他の団体に対して、人的支援、金銭的支援、用具や教材の提供およびノウハウの支援を行った。

① 一般支援

体験教室・入門講習会を開催して愛好者を増やしたいという会員・会友の自己負担を軽減する支援を継続し、開催場所・回数増を図った。また、カルチャースクール講座では通常支払われないアシスタント料を助成することにより、良質なブリッジ講座の開催を支援した。

- ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する体験教室の助成

7 都道府県およびシンガポールの教育現場や文化祭、地域イベント、国際交流イベント、老人福祉センター、公民館、ブリッジセンター、ブリッジクラブで、会員・会友が開催した体験教室の講師／アシスタント料、会場費、交通費を助成した。

地域別実施状況内訳

地域	参加者数	件数	助成額
群馬	20 名	2 件	¥24,000
埼玉	30 名	1 件	¥21,724
東京	140 名	6 件	¥224,390
千葉	5 名	2 件	¥14,120
神奈川	79 名	5 件	¥129,158
大阪	2 名	1 件	¥10,940
福岡	4 名	1 件	¥6,460
海外	9 名	1 件	¥6,000
合計	289 名	19 件	¥436,792

- ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する入門教室の助成
4 都道府県及びシンガポールで会員・会友が開催した入門講習会の講師料、会場費、交通費のアシスタント料を助成した。

地域別実施状況内訳

地域	参加者数	件数	助成額
北海道	8 名	1 件	¥76,000
東京	84 名	6 件	¥677,172
神奈川	29 名	4 件	¥282,280
福岡	4 名	1 件	¥63,400
海外	4 名	1 件	¥34,400
合計	129 名	13 件	¥1,133,252

- カルチャー講座助成
5 都道府県で開講されているカルチャースクール講座 23 件について、アシスタント料、講師・アシスタント交通費および講師料（規定金額に満たない場合のみ）の助成を行った。

地域別実施状況内訳（アシスタント交通費助成を含む）

地域	参加者数	件数	助成額
東京	117 名	12 件	¥386,018
埼玉	9 名	1 件	¥20,608
千葉	14 名	4 件	¥138,588
愛知	24 名	3 件	¥77,814
大阪	19 名	3 件	¥56,230
合計	183 名	23 件	¥679,258

- 地方活性化活動（地方クラブ支援）
全国のブリッジクラブによる普及活動を奨励し、イベント企画・体験教室スタッフ派遣・賞品提供など必要な支援を行った。

② 教育現場におけるブリッジ講座支援

- 東京大学ブリッジ講座（15 年目）
講座概要： 後期 14 回、2 単位
実施場所： 東京大学駒場キャンパス(オンライン)
講師： 浅井潔
支援内容： アシスタント 1 名の派遣
結果： 単位取得者 12 名
- 早稲田大学ブリッジ講座（12 年目）
講座概要： 前期 15 回
実施場所： 早稲田大学(オンライン)
講師： 並木亮
支援内容： 講師及びアシスタント 4 名の派遣、交通費、会場費、用具その他授業経費支援を行った。
結果： 単位取得者 11 名
- 青山学院大学ブリッジ講座（10 年目）
今年度は実施を見送った。

- 明治大学ブリッジ講座（7年目）
今年度は実施を見送った。

※自主開講

- 大阪大学ブリッジ講座（6年目）
講座概要： 前期 15回
実施場所： 大阪大学
講師： 大橋正幸
結果： 単位取得者 20名

③ 学校・学生支援

- 学生クラブの活動支援（部員勧誘活動、クラブ立ち上げ、用具提供）
要請に基づき、大学・高校・中学ブリッジ部の立ち上げや新入部員獲得活動に対する支援やクラブ活動に必要な教材・用具等の提供を行った。
対象クラブ：7クラブ
- 学生クラブによる他大学や他サークルの友人・知人への PR 活動推進支援（費用支給）
要請に基づき、他大学や他サークルの友人への PR 活動への支援を行った。
- 学生リーグ主催の学生選手権への参加費用助成
学生リーグ主催の学生選手権および学生合宿は中止された。

4. 広報（公益目的事業 2.4）

普及のターゲットごとに最適な広告メディアを選定して PR 活動やプロモーション活動を行った。

① 広報宣伝 PR 活動

- 2020 年度は媒体への広告掲出を見送った。
- センター主催体験教室・講習会告知広告
朝日新聞 9 月・3 月（東京・神奈川・千葉）：201.3 万円
- その他の広報宣伝活動
プレスリリース配信：3 本（コロナ関連）

② プロモーション活動

- ネットゲーム環境として BBO に開発した JCBL 専用ルームの利用者拡大を図り、HP を通じた誘導を行った。

③ 出版物の刊行

- ブリッジをテーマにした小説の制作、出版を目指して情報収集を行った。

④ ウェブサイト運営

- 助成に関する規定や説明をより見やすくする目的で HP の階層を検討した。

⑤ 広報ツール、プロモーショングッズの作成・配布

- 普及のための広報ツールやプロモーショングッズを適宜作成・配布した。

5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）

- 普及ネットの運営を行った。
- ブリッジ・インストラクターの登録管理と登録証の発行を行った。

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

2020 年度も (1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援、及び(3)国際的競技団体との交流の 3 事業を通じて、ブリッジの普及・発展への寄与に努めた。

1. 国際競技会的主催（公益目的事業 3.1）

2020 年度は国際競技会を開催しなかった。

2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

① 日本代表選抜

- 2021 年度に代表を派遣する 2021APBF 選手権の日本代表選抜試合を開催した。参加チーム数がオープン 1、ウィメン 2、ミックス 2、シニア 1 であったため、オープン、シニアは選抜試合を行わず、ウィメン、ミックスは 2020 年 11 月 21、22 日に選抜試合を行った。遠隔地からの参加者には交通費と宿泊費を助成した。
- 代表チームの国内ナショナル競技会参加料及び練習会の費用を助成した。

② 国際競技会派遣

• 2020 ワールドブリッジゲームズ

7 月にイタリアで開催予定の 2020 ワールドブリッジゲームズは中止となった。ワールドブリッジゲームズは 2022 年から 4 年毎に、ワールドブリッジシリーズは 2024 年から 4 年毎にそれぞれ開催されることに変更された。

3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、2018 年度は以下の事業を実施した。

① 世界同時大会への参加

- 開催中止

② WBF ユース支援同時大会への参加

- 開催中止

③ 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集

- ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催状況の提供
- APBF 加盟国競技会の開催情報の提供
- WBF 加盟国の競技会開催情報の提供

④ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員・会友に提供した。

4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

- 国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

IV. 収益事業等

1. 公認（収益事業等 1）

収益事業等 1.1 競技会の公認

① クラブ・センター主催競技会の公認

- 当連盟が公認するブリッジセンター及びブリッジクラブが主催する競技会（ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲーム）を公認した。

レイティング	競技会数	2020 年度 卓数	2019 年度 卓数
ナショナル	10	85.5	197.5
リジョナル	22	465.5	1,246.0
セクショナル	1,689	19,494.5	34,472.25
ローカル	64	241.5	492.0
CCG	718	4413.75	10,354.5
IMP	201	958	2,768.0
合計	2,704	25,658.75	49,530.25

② マスターポイントの認定・管理

- マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行った。

マスターポイント証発行枚数：37,353 枚

2020 年度認定したマスター位の人数は以下の通り

ダイヤモンドライフマスター：	3 名
ゴールドライフマスター：	9 名
シルバーライフマスター：	42 名
シニアライフマスター：	58 名
ライフマスター：	45 名
シニアマスター：	56 名
ナショナルマスター：	60 名
マスター：	59 名
ジュニアマスター：	74 名

収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

① ブリッジクラブの公認と育成

- 浜松リジョナルの中止に伴い地方クラブ会議は中止した。
- 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営を行った。

② 競技会開催支援

地方リジョナル 1 競技会にディレクター派遣費用の助成を行った。

2. 商品販売（収益事業等 2）

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の仕入れと販売を行った。

V. 法人・管理部門

1. 会員・会友

① 入退会の状況

会員／会友数(2021年3月31日現在)

会員資格	2021/3月	2020/3月	増減
正会員	48	52	△4
シニア正会員	86	86	+0
終身会員	76	79	△3
特別会員	10	11	△1
名誉会員	2	2	+0
小計	222	230	△8
A会友	2,059	2,451	△392
B会友	3,785	3,798	△13
地方会友	835	904	△69
ジュニア	22	29	△7
終身会友	87	87	+0
小計	6,788	7,269	△481
総計	7,010	7,499	△489
クラブ	95	95	+0

② 会員・会友向け刊行物の発行

- 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行した。

『JCBL BULLETIN』（会報）隔月刊年6回奇数月1日に発行

部数：7,500部（1号）、7,400部（2～3号）、7,200部（4～6号）

『JCBL HANDBOOK』毎年5月1日発行、部数：7,500部

③ JCBL ライブラリーの運営

- 通常の新刊書に加え、欠落していた図書の追加購入を行った。

④ キャンペーン

- 会員・会友向けに「紹介キャンペーン」を実施した。

実施内容：新入会者及び紹介者に QUO カードを進呈

実施期間：2020年度入会対象（2020年4月1日～4月30日）

2021年度入会対象（2021年1月1日～3月31日）

- 一般向けに「新入会キャンペーン」を実施した。

実施内容：新入会者は会費1年間無料

実施期間：2020年度無料対象（2020年4月1日～2020年12月31日）

2020年度および2021年度無料対象（2021年1月1日～3月31日）

2. 理事会・会員総会

(1) 理事会

開催日／出席等	議事事項	会議の結果
第 62 回理事会 4 月 23 日 出席 12 名 欠席 0 名 監事出席 2 名	1. 第 61 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の逝去について 3. 次期役員立候補について 4. 2019 年度事業報告書および決算報告書について 5. 理事による利益相反取引の承認について 6. 第 9 回会員総会の招集について 7. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 承認 会員総会への付議を決議 承認 承認 了承及び承認
第 63 回理事会 5 月 30 日 出席 12 名 欠席 0 名 監事出席 2 名	1. 役員相互選について 2. 第 62 回理事会議事録の承認について 3. 競技委員選任について 4. 2020 年度横浜ブリッジフェスティバルについて 5. 競技事業報告、法人・管理部報告、および新型コロナウイルス関連の報告	選任 可決 承認 承認 了承及び承認
第 64 回理事会 6 月 26 日 出席 11 名 欠席 1 名 監事出席 2 名	1. 第 63 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の逝去について 3. 各委員会委員の承認について 4. 国際大会開催準備金について 5. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 承認 承認 了承及び承認
第 65 回理事会 7 月 31 日 出席 9 名 欠席 3 名 監事出席 2 名	1. 第 64 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の逝去について 3. 特定費用準備資金取扱規則について 4. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 承認 了承及び承認
第 66 回理事会 8 月 28 日 出席 8 名 欠席 4 名 監事出席 2 名	1. 第 65 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の逝去について 3. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 了承及び承認
第 67 回理事会 10 月 23 日 出席 10 名 欠席 2 名 監事出席 1 名	1. 第 66 回理事会議事録案の承認について 2. 会員の逝去について 3. 平日セクショナルの開催緩和の件 4. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 承認 了承及び承認
第 68 回理事会 12 月 18 日 出席 11 名 欠席 1 名 監事出席 2 名	1. 第 67 回理事会議事録案の承認について 2. 2021 年度予算案及び事業計画について 3. 各委員会及び事業部報告	可決 継続審議 了承及び承認
第 69 回理事会 1 月 25 日 出席 10 名 欠席 2 名 監事出席 2 名	1. 第 68 回理事会議事録案の承認について 2. 2021 年度予算案の及び事業計画について 3. 各委員会及び事業部報告	可決 継続審議 了承及び承認

第 70 回理事会 3 月 26 日 出席 11 名 欠席 1 名 監事出席 2 名	1. 第 69 回理事会議事録の承認について 2. 会員の逝去について 3. 2021 年度予算案および 2021 年度事業計画書の件 4. 各委員会及び事業部報告	可決 了承 承認 了承及び承認
--	---	------------------------------

(2) 総会

開催日／出席等	議事事項	会議の結果
第 9 回会員総会 5 月 30 日 総会構成員 229 名 出席 131 名 (委任状 123 名)	1. 2019 年度の公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟事業報告、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録について 2. 2020 年度の事業計画並びに予算案の報告について 3. 理事選任について 4. 監事選任について	承認 了承 選任 選任

3. 組織運営

① 事業運営体制

- 2021 年度予算案の審議のために、2020 年 12 月 9 日に業務執行理事による業務執行会議を企画委員会と合同で開催した。各事業部から提出された予算案をまとめた予算案原案が提出され、この原案をもとに 12 月、1 月開催の理事会および 2 月開催の企画委員会において予算案を検討した。3 月 10 日に開催した企画委員会において 2021 年度予算案および事業計画をまとめ、3 月開催の理事会において承認した。
- 来年度以降も各事業部が予算編成を行い、それをまとめた時点で業務執行会議を開催し、各事業部の予算について拡大、縮小の審議を行う。その後の理事会および企画委員会で予算案について検討を行い、3 月開催の理事会で最終案を承認する手順を踏む。
- いくつかの規則の制定及び改訂を行った。

② 事務局

- 休業を行うことにより人件費の削減に努めた。

4. 常設委員会・特別委員会

① 企画委員会

- 2020 年 6 月 26 日開催の第 64 回理事会において委員長指名により選任した以下のメンバーで構成されている。

委員： 吉田正（委員長）

（委員長が指名する委員）ロバート・ゲラー、高野英樹、寺本直志、仲村篤志、古田一雄

アドバイザー：宮内宏顧問弁護士

- 定例委員会を、2020 年 7 月 8 日、8 月 12 日、9 月 9 日、10 月 11 日、11 月 11 日、12 月 9 日（業務執行会議と合同開催）、2021 年 1 月 13 日、2 月 10 日、3 月 10 日の合計 8 回開催した。
- 本委員会では、以下の課題に取り組んだ。
 - 2021 年度予算案審議・事業計画書作成
 - 2020 年度事業報告書作成
 - 会員および会友の競技会参加状況の確認および競技会活性化策の検討
 - JTOS の運用状況の確認および検討

5) その他、JCBL の運営全般に関わる事項

- (1) 2021 年度予算案の審議については、業務執行会議との合同会議により、予算全体の方針の審議、競技会事業部、普及事業部などの担当業務執行理事による予算方針の説明、および事業部間調整が行われ、円滑に編成が行われた。
また、2021 年度事業計画書についても、滞りなく作成された。
- (2) JTOS については現在の運用状況および課題の確認を行った上で、今後の長期安定性の確保をテーマとして検討した。
- (3) コロナ対応の全般を扱った。感染防止対策、各種発令への対応、JCBL 主催事業の開催方針、センターおよびクラブ支援策を検討した。

② センター協議委員会

- ブリッジセンターの代表者と定期的に意見交換を行う協議会として、以下のメンバーにより構成されている。
委員：浅越ことみ（委員長）、齋藤陽子（普及事業担当理事）、山田和彦（競技会事業担当理事）、高野英樹（事務局長）、仲村篤志（競技会事業部長）、大政哲人（管理部長）
- 原則として、奇数月にブリッジセンターの代表者との協議を行い、必要に応じて各委員会および理事会への連絡や要請などを行っている。
- 今年度に関しては、コロナ対応を主に検討した。コロナにおける競技会活性化策として平日セクショナルの開催条件の緩和を 1 年間限定で行うこととした。

③ 競技委員会

I. 競技会事業（競技会運営環境の整備）参照

④ 代表選抜委員会

- 国際競技会の日本代表の選抜方法及び代表選手への助成を検討する場として、以下のメンバーにより構成されている。
委員：橋本公二（委員長）、齋藤陽子、古川京司、高野英樹
- 今年度に関しては 2021 年 APBF 選手権の代表選抜方法及び助成内容、2022 年アジア競技大会の優先派遣種目について検討を行った。

⑤ ルール委員会

I. 競技会事業（競技会運営環境の整備）参照

⑤ 人事委員会

- 定例委員会を 2020 年 10 月 20 日に開催し、大政哲人管理業部長の継続雇用条件について検討を行い、方針を決定した。また来年度事務局の構成について検討を行った。
- 定例委員会を 2021 年 3 月 5 日に開催し、2020 年度の職員の評価、2021 年度の職員の年俸支給額などについて検討を行い、来年度の職位を決定した。